



福祉と教育の連携を研究

 発達教育学部 教育学科 すずき よりこ
 養護・福祉教育学専攻 特任教授 **鈴木 依子**

 子ども達にスクールソーシャルワーカーの支援を届ける
 行き過ぎたお手伝いに警鐘！ヤングケアラーを見過ごさない
コメントできる
研究領域

福祉と教育

スクール
ソーシャルワーカー

養護教員

ヤングケアラー

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、教育と福祉の連携について研究を続ける、教育学科の鈴木依子特任教授をご紹介します。

■教育現場におけるスクールソーシャルワーカーの重要性。養護教諭との連携は5割未満。

様々な生活課題を抱えた子どもが増加する教育現場では、不登校問題が深刻化し、福祉的視点の導入が求められています。平成21年度から各市町村教育委員会に配置された「スクールソーシャルワーカー（以下SSWer）」は、教育や社会福祉などの専門的知識や技術を持ち、子ども達が置かれている環境への働きかけや関係機関との連携など多様な支援で課題解決を図っています。しかし2021年度の実績では、SSWerは実人数3,091人、20,079校となっており、十分とは言えません。また配置形態は、主に配置型と派遣型ですが、どのような実践方法が有効に機能するかは、各自治体の状況や活用方法によると考えられています。

文部科学省の調査によると、養護教諭の職務における教職員・保護者・スクールカウンセラー等との連携は9割を超えますが、SSWerとの連携は5割に満たない状況でした。一方で本学の調査では養護教員になった卒業生のほとんどがSSWerとの連携を重要視していました。鈴木特任教授は、子どもの抱える課題に早期発見・対応ができる養護教諭がSSWerとして学校に常勤することで、教職員だけでは困難な問題に対応できると考えます。SSWerの資格取得カリキュラムがある京都女子大学では、学生に社会福祉士+SSWer+養護教諭のトリプルライセンスを目指すよう働きかけています。

■学校に行けない子ども達のために、福祉と教育の連携をサポートするスクールソーシャルワーカー。

学校に行けない子ども達には、複雑に絡み合った様々な背景があります。鈴木特任教授は、文部科学省の2018年度の「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」から、学校にいけない理由を分析をしました。すると、学校にいけない理由は「引きこもり予備群」と「虐待群」に大別され、「虐待群」の多くはネグレクトでした。ネグレクトは、子育て放棄・養育力不全・子育て不安など、家族関係に起因するものです。学校にいけない子どもを支援するためには、本人だけでなく子どもを取り巻く環境に働きかける必要があります。SSWerであれば、学校と連携を取りながら、役所・病院・福祉施設など他の機関に子どもをつなぐことができます。鈴木特任教授は、子どもと環境の両方に介入して支援を行うことが出来るSSWerに、子どもの抱える問題を解決するための推進力があると考えています。

■“お手伝い”のあいまいな境界線。社会全体でヤングケアラーを見過ごさない環境を整える。

日本ケアラー連盟によるヤングケアラーの定義は、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子ども」としています。ヤングケアラーという言葉自体、最近急速にひろがりを見せてきましたが、社会全体の理解は十分とはいえません。世間一般も、子どもの家庭内のお手伝いを正当化する考え方がいまだに多いことも事実です。つまり、行き過ぎたお手伝いと正当なお手伝いの境界線があいまいなのです。また、お手伝いをする理由が、家族のためや自分のためという前向きなもの、年齢や成長に見合ったものであるほど、子ども達には自分がヤングケアラーだという自覚がありません。そのため、子どもによるケアが日常的となり、支援が必要な場合であっても表面化しにくくなっています。今後は社会全体で、行き過ぎた“お手伝い”への警鐘を鳴らすとともに、ヤングケアラーを見過ごさない環境を整える必要性があります。

鈴木依子（すずき・よりこ） Profile

<http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/2/0000134/profile.html>

略歴 1957年生まれ。1985年日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学専攻博士課程前期修了、2004年社会福祉士取得。2004年京都女子大学家政学部生活福祉学科講師、2014年同学科准教授、2020年同学科教授、2022年京都女子大学発達教育学部教育学科養護・福祉教育学専攻教授 2023年より現職。

論文 『学校にいけない理由とスクールソーシャルワーカーの支援内容の関連について—スクールソーシャルワーカー実践活動事例集の分析から—』（単著/2021年/京都女子大学生生活福祉学科紀要 第16号）『養護教諭が「社会福祉士の知識を活かしてよかった」と思う取り組みについて』（単著/2022年/京都女子大学生生活福祉学科紀要 第17号）『ヤングケアラーへの認識—家庭内役割を担うこととの関連について—』（単著/2023年/京都女子大学養護・福祉教育学紀要 第1号）

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

- 京都女子大学入試広報課 北山・堀川・竹縄 TEL: 075-531-7054 FAX: 075-531-7222
- 京都女子大学広報デスク（プランニング・ポート内）福嶋・小宮・井上 TEL: 06-4391-7156 FAX: 06-4393-8216
- 京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>